

検討会の論点と 前回の委員意見について

平成29年12月22日
国土交通省国土政策局

【論点1】 経済・産業構造や、人々の暮らし、価値観等が今後大きく変わっていく中で、リニアやその他の高速交通ネットワーク(新幹線、高速道路、航空等)等の整備によって、交流・対流に要する時間の劇的な短縮が、ビジネススタイルやライフスタイルにどのような影響を及ぼす可能性があるのか。

- ①経済・産業や、人々の暮らしのスタイルや、価値観は、リニアの整備が進む中長期間に、どう変化
する可能性があるのか。その変化において、人の移動に要する時間が短縮することの意味は何か。
- ②リニアの開業及びその他の高速交通ネットワークの整備によって、例えば、次の点にどのような
可能性があるのか。
 - ・新たな価値創造、研究開発、生産方法、働き方、取引関係の拡大、人材の獲得や育成方法など
にどのような変化を生じさせる可能性があるのか。
 - ・大都市部の高齢者の生きがいや、若者・中高年齢者の自己実現や観光・娯楽・癒しなどに対する
ニーズの増大等、暮らしの質の充実や、そのための新たなビジネスなどに、どのような可能性があ
るのか。
 - ・海外から人や投資を引きつける国際的な魅力の向上について、どのような可能性があるのか。
- ③新たな交通サービスや交通基盤、都市環境などにどのようなことが望まれるか。

※上記について、ゲストスピーカーの意見を伺う。

※尚、リニア開業の見通しは、東京-名古屋間が、2027年頃、東京-大阪間の開業が、2045年頃から
最大8年間前倒しと想定されている。

上記に加えて、

リニアによって生じる時空間的な人口の増大や、産業の集積、知の対流の活発化等による経済効果
について、可能な限り定量的な分析を行う。

検討会の論点

【論点2】 論点1において明らかにされるリニア等の整備効果を「引き出す」ために、各地で共通して取り組むべきことは何か。

- ①企業、大学や研究機関等の交流・対流を促進し、イノベーションの創出につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ②大都市部の高齢者の生きがいづくりなど、暮らしの質の向上に対するニーズに対応し、これを新たな価値創造やビジネスの拡大につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。（セカンドライフにおける新しい幸福を創出するにはどのようにすべきか。）
- ③地域の文化・伝統を引き出し、新たな価値創造につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ④海外の人と投資を引き付ける魅力ある地域づくりにつなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。また、海外への情報発信、ニーズの把握はどうするべきか。

【論点3】 論点2を踏まえ、論点1において明らかにされる効果を「引き出す」ための国土デザイン、地域デザインの基本的方向をどう設定すべきか。

- ①三大都市圏の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。
- ②中間駅を中心とする地域の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。特に、プロモーションや地域ブランディングなどを進めていくためには、どのような要素に着目すべきか。
- ③リニアの効果を全国に拡大するための方策は何か。特に、インフラの質の向上、進化の基本的方向はどうあるべきか。

【株式会社日立製作所 中西 宏明 取締役会長兼代表執行役 発表 「スーパー・メガリージョン構想への提言」についての意見交換】

- (1) 製造、物流、発電等、産業分野の垣根が低くなることで、産業構造そのものが否応なく大きく変化している。コモディティ製品を大量生産して販売するモデルから、製造とサービスをセットにしたモデルへの転換が進み、各国の競争も、どのようなサービスを展開できるかという勝負になっており、日本企業として個々の企業の強みを発揮できる側面が多面的にある。
- (2) 我が国が思い描くSociety 5.0は、ヒューマニティとデジタルの要素を併せ持ち、データ共有によって見えなかったものが見えるようになり、そうしたデータの根拠に基づく仕組みを作ることで、如何にスマートな社会を実現するかという考え方である。社会全体のスマート化を目指している点で、欧州にはIndustry 4.0よりも大きく包含力がある。スーパー・メガリージョンの議論でも、その動きを想定してほしい。
- (3) 三大都市圏から外に伸びる可能性は、日本全体の活力に関わる問題。地方の方が居住空間に余裕があり、同居家族のサポートにより女性も働きやすく、出生率も高い等、生活環境は良い。働く場所があれば地方に住みたい若者も多いと考えており、その中でリニアがもたらすものとしてフェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションにより何が実現できるかを考えるべき。

【多摩川精機株式会社 萩本 範文 副会長 発表

「リニア中央新幹線がもたらす地域産業のイノベーション戦略」についての意見交換】

- (1) 飯田市では、東京との時間距離が5時間から45分に短縮することは画期的な一方、今ある田舎の風景を残さなければ、という議論も出ている。両方を兼ね備えるものとして、「メガリージョン・オアシス」と題し、伝統文化と先端科学が織りなす混じり合いや、若者が夢を求めて集まってくるまちづくりが望ましいと考えている。
- (2) 三遠南信には産業面で特徴的な都市が所在しており重要な地域として注目したい。次世代の航空産業について、MRJを中核に位置づけている一方で、幅広い機種に製品を供給するグローバルな視点は重要。注目されるのはバイオを含めた農業分野の取組であり、多くの都市住民の関心を繋ぎ、フェイス・トゥ・フェイスを含めた多様な交流が期待される。
- (3) 都市圏からの人材獲得について、若者が集まる最大の理由は、夢を実現できる場所かどうかということ。田舎は、都市に対してハンデを負っており、航空、バイオ産業のような夢を与える産業を興さなければ、人が通り過ぎるだけの街になってしまう。来れば間違いなく住みやすい場所であり、将来、東京・名古屋への移動の利便性が高まり、変化が起きることが期待される。
- (4) シニアの挑戦が日本を変える。取り組みたいことがあっても、大きな組織に居るがために出来なかったことも多い。組織を離れて起業することで、チャレンジできることも出てくるので、シニアにとっては十分チャンスがあることをアピールすべき。